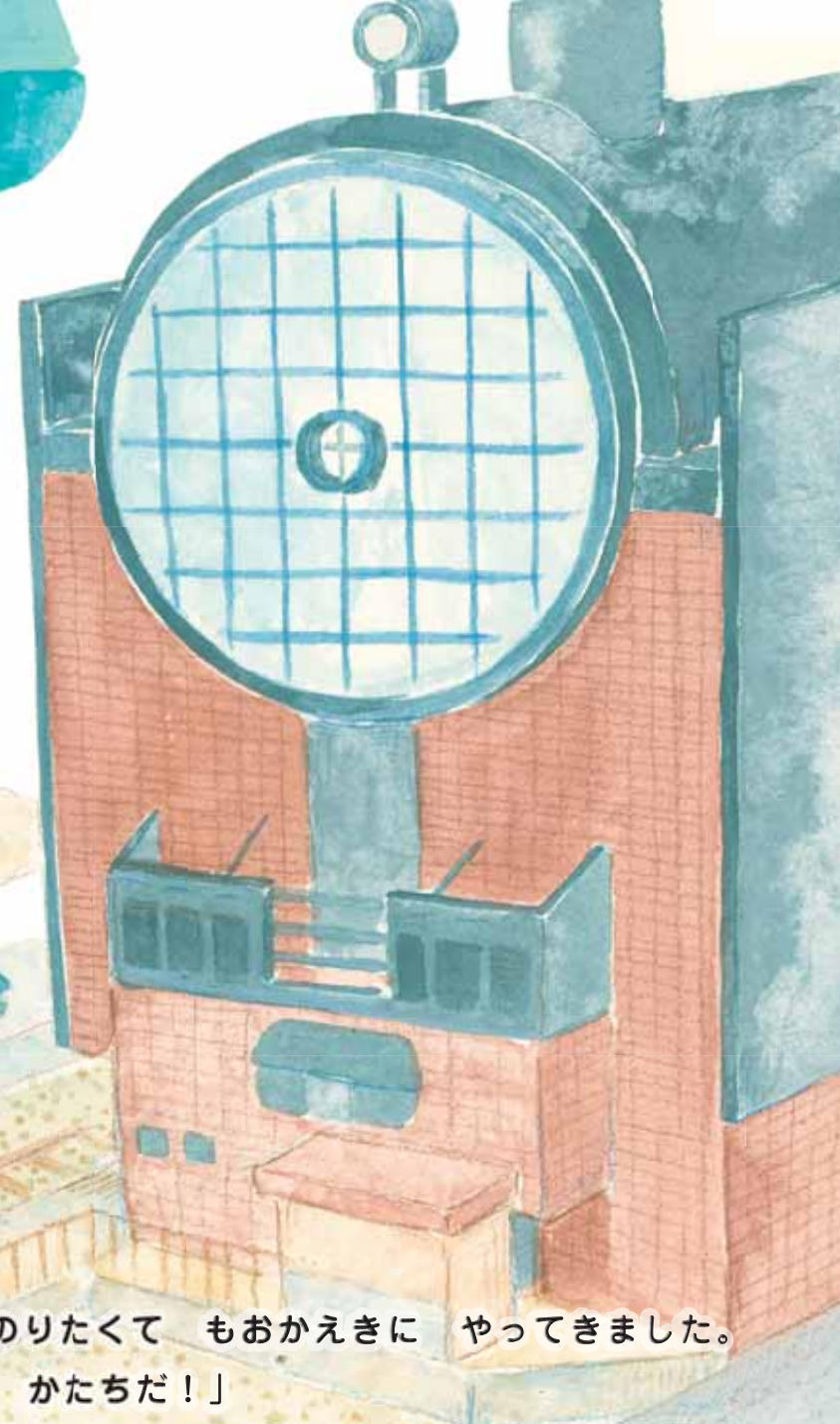




エスエル

SLのおはなし

きょうは SL (エスエル) にのりたくて もおかえきに やってきました。
「わあ！えきが きかんしゃの かたちだ！」
もおかえきに とうちゃくです。



SL (エスエル) のじかんまで もおかえきを みてまわります。
いまは つかっていない きかんしゃたちが てんじ されています。
その、おおきなこと! 「かっこいい!」と おにいちゃん。
いちこは おおきな SL (エスエル) に びっくり。



「これは D51 (デゴイチ) だね!」と、おとうさん。
「よし、たんけんだ! いちこ いくぞー!」と、おにいちゃん。
D51を ぐるりと みてまわってこようと いうのです。

たんけんをしていたら、
おにいちゃんと いちこは D51の
うしろのしゃりょうまで きてしまいました。
すると…



「あ、ねこ！」

「きかんしゃの ひみつ おしえてあげようか？」
ふたりとも しゃべる しろねこに びっくり。
でも、すぐに
「おしえて！」「いちこも！」





「きかんしゃたちは よるになると
みんなで おしゃべりを しているの、しってるかい？」
おにいちゃんも いちこも そんなわけないと
おもいましたが、なぜだか はっきりと
おもいうかべることが できました。
「みんなが なかよしなのは、むかし
ほっかいどうで いっしょに はしっていたからなんだよ。」





キューロウ
D51
スハフ

みんながいっしょに
はっていたほっかいどう。
ゆきがたくさんふるところ。

キューロウは
もおかにも
きました



スハフは
おだいばに
いました

D51は
しずおかにも
きました



じうはスハフは
えいめにも きました

それから ねこは じめんに
にほんのちずをかきました。

「あっちが ほっかいどう。ここが もおか。
いたいしてからは みんな べつべつの
ばしょで たいせつに されていたんだ。」
「へえ！ ねえ、ほっかいどうってさ…」
おにいちゃんが なにか いいかけたとき
「おにいちゃん、いちこ〜。」



「このことは ひみつだよ…。」
ねこの こえは おとうさんと
おかあさんには きこえなかったようです。
「たんけん たのしかった？」
「もうすぐSLがやってくるじかんだよ。」

「ポーッ！」

SLが けむりを はいて やってきました。

しゅーっっ どっどっどっ

まるで いきもののようです。

「うわー、かっこいいなあ！」と

おにいちゃん。





でも いちこは びくびく。
おどろいて ドキドキです。
だって くらくて おおきくて
けむりが もくもくしているんだもの。



SLにのっても いちこは まったくうごきません。
おとうさんも おかあさんも しゃしょうさんも
もう おてあげです。
そのとき、「わあ！ すごいぞ、いちこ！」
と、おにいちゃん。
いちこが、ちらっと おにいちゃんのほうを みると…





「わあー！！」

まどのそとに なのはなばたけが ひろがっていました。さくらも まんかいです。
てをふっている ひとたちも たくさんいます。

「おーい！」おにいちゃんが てを ふりました。

「おーい！」いちこも にっこり えがおになって、てを ふりはじめました。

真岡鐵道の アレコレ



「夢とロマン」を育むSL

真岡鐵道は、「真岡線」の名称で、全国初のローカル線として明治45年に誕生し、国鉄、JRを経て第3セクターとして引き継がれてきました。昭和60年代、赤字ローカル線として廃止の危機もありましたが、現在も高校生の通学の足として、2市3町を結ぶ大切な生活路線となっています。真岡鐵道の一番の魅力は、21世紀を担う子どもたちの「夢とロマン」を育むSLです。

現在運行されているSL



C12-66号

昭和8年に製造され、福島県川俣町で保存されていたものを芳賀地区広域行政事務組合が譲り受け、復元修復の後、平成6年3月に運行を開始しました。1999年にはNHKドラマ「すずらん」の撮影でも活躍しました。



C11-325号

昭和21年に製造され、新潟県水原町(現:阿賀野市)で保存されていたものを平成8年に真岡市が譲り受け、復元修理の後、平成10年11月に運行を開始しました。

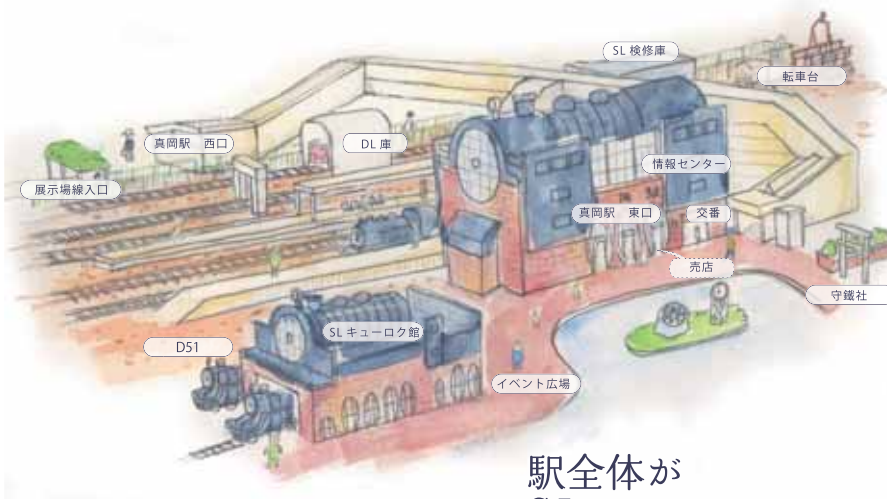
SLはこう見えてとってもデリケートなんです。音や匂い、温度の微妙な違いを感じ取って整備します。子どもを育てるように大切に大切に。経験がものをいうこともあり、ベテランを中心に丁寧な作業を心がけています。



SLキューロク館
初代館長
ゆあさ ようぞう
湯浅 陽三さん

SLがシンボル「真岡駅」と 「SLキューロク館」

SLの走るまち拠点施設「真岡駅」と「SLキューロク館」。館内に展示している9600形SLは、太いボイラー、短い化粧煙突、低い二つのドームにかたどられた、大正時代の代表的な蒸気機関車で、大変人気があります。キューロク館の施設名称は、9600形SLが「キューロク」の愛称で多くの人々に親しまれたことに由来します。展示の9600形SLは圧縮空気を動力源として動きます。毎週土曜日、日曜日および祝日には1日3回運行します。動く9600形SLは国内では真岡だけです。



駅全体が
SLミュージアム!

いつ来てもあつという間にタイムスリップできるところが魅力ですね。

私も学生のころ真岡線にお世話になっていたので、いま、自分の子どもと一緒に真岡駅を訪れることに感慨深いものがあります。また、目の前でSLの発車の瞬間を見るのは迫力満点ですね。



SLを見に遊びにきていた
たかせ ひであき
高瀬 英昭さん親子

2015年9月、D51-146号が静岡市から到着

D51は、日本の蒸気機関車の代名詞です。

主に貨物輸送に用いるため、戦時中大量に製造されました。戦後の日本の経済成長を下支えする役割を担うほか、旅客需要の増加に伴い、客車をけん引するなど、人々の身近な機関車として活躍を続け、その力強さと躍動感あふれる姿に、懐かしさを覚える方も多いことと思います。

今回、静岡市から譲り受けたD51-146号は、146番目に製造されたD51です。昭和13年11月に日本車両名古屋工場で製造され、昭和50年12月に引退するまでの37年間、北海道南、道央の長万部、室蘭、函館、岩見沢など、主要な路線で活躍しました。

真岡市は、静岡市所有の蒸気機関車、D51を無償で譲り受け、SLキューロク館敷地内に静態展示しています。

D51-146号

49671号

スハフ4425号



SL9600形49671号機(通称キューロク)とスハフ4425号、さらに静岡市から譲り受けたD51-146号機(通称デゴイチ)が、同じ時期に、北海道で走っていました。40年の時を経て3人(?)が真岡で再会したなんて、ロマンを感じませんか？

SLキューロク館 館長
いわみ まさお
岩見 和男さん



北真岡 SL・菜の花通り

北真岡駅の東側につづく「SL・菜の花通り」。4月中旬には満開の桜と、菜の花の中を走るSLを見ることができます。

今から35年ほど前、桜町(荒町4区)ができたときに、市が沿線にソメイヨシノを植樹したのが始まりです。1年を通して、菜の花の種まき、草取り、後始末までを地域のみんなで管理しています。見に来てくれる方が喜んでくれるのが一番！春の桜町千本さくらまつりでは、SL、桜、菜の花、そして桜町の山車、みこしの素晴らしい共演がご覧になれます。



真岡市荒町4区 区長
さとう ただし
佐藤 直さん



桜町公民館 館長
さかより ひでお
酒寄 英男さん

Ichiko and her family came to ride the steam locomotive. While Ichiko and her big brother were exploring the SL Kyuroku Kan, they met a talking cat. The cat told them that the steam locomotives used to travel through Hokkaido together. Just then, the locomotive arrived. Her big brother was delighted, but its power scared Ichiko. Even so, when they saw the cherry blossoms and field mustard flowers that spread outside the windows, they were both thrilled.

“Ichiko” 全家来乘坐SL。“Ichiko” 和哥哥在“SL96馆”中探险时，遇到了一只会说话的猫。这只猫给他们讲了SL们在北海道风驰电掣的故事。就在这时，SL开过来了。哥哥兴高采烈，而“Ichiko”却因为SL呼啸而来忽然感到害怕。但是，当两个人看到窗外漫天开放的樱花和油菜花，又变得欢天喜地起来。

‘Ichiko’ e sua familia foram andar na Locomotiva a vapor (SL).No momento em que ‘Ichiko’ e seu irmão mais velho foram visitar o ‘SL KYUROKU KAN’, encontraram um gato falante. O gato comentou que todas as locomotivas (SL) corriam na provincia de Hokkaido. Neste momento, a locomotiva (SL) chegou. O seu irmão ficou contente. Enquanto isso, ‘Ichiko’ ficou com medo da potência e do tamanho da locomotiva. Porém ao avistarem o panorama das flores de cerejeiras e das flores de mostarda de campo que expandiam pela janela, os dois ficaram muito felizes com a paisagem.